



サッカーW杯6月開催 熱いぞ！ ブラジル！



基本情報

ブラジルの首都はブラジリア。面積は851.2万平方km（世界5位、日本の22倍）で、人口は約2億人（世界5位）です。かつては先住民インディオだけが暮らしていましたが、1500年にポルトガルの航海士に発見され、1822年に独立するまでポルトガルの領土でした。名前の由来は海岸沿いに生えていた布を染める木、ブラジルです。2000年代に入り国内総生産（GDP）は世界7位の180兆円で、広大な土地と豊富な資源と人材が武器です。経済新興国のロシア、インド、中国、南アフリカと合わせBRICSと称されます。

おいしい世界一



§ コーヒー豆 内陸の高原地帯は地味が肥え、朝夕の気温差が激しいため、コーヒー栽培に適した場所です。

§ サトウキビ 砂糖の材料ですが、ブラジルではアルコールを作り、車の燃料としても使われます。いわゆるバイオ燃料です。オイルショックの時に生まれました。

§ オレンジ 日本ではオレンジジュースとして輸入されています。濃縮という形で輸入されるものの75%はブラジル産です。

2016年にはリオデジャネイロでオリンピック開催！



ワールドカップ

ブラジルのW杯優勝は世界最多の5回。強さといいいファンの熱狂度といい、サッカー王国の名にふさわしいといえるでしょう。8万人を収容する巨大なマラナン・スタジアムは決勝戦の会場となります。マラカナンができたのは1950年のW杯初開催の際ですが、このときは優勝を逃しています。2002年の日本・韓国共催以来、世界の座から遠ざかっており、開催国の今回こそ悲願の王座奪還に向け国中が燃えています！



ブラジルやサッカーが舞台の本を読んでみよう！

*『アルケミスト』パウロ・コエーリョ著

ブラジル・リオデジャネイロ生まれの著者が描く世界中で大ベストセラーとなった夢と勇気あふれる物語です。アルケミスト（錬金術師）の導きと旅のさまざまな出会いと別れの中で、人生の知恵を学んでいきます。

*『受精』帯木蓬生著

舞台はブラジルのサルヴァドール。恋人の明生を交通事故で亡くした舞子は失意の中、ドイツ人ヘルムートに出会います。明生の子供を授かれると暗示にかけられた舞子は、ブラジルへの旅を決意します。

*『熱帯遊戯』三枝洋著

アマゾン・ミステリーです。著者は大学卒後ブラジルに移住、数年前に日本に帰国し冒険小説を書いています。

*『龍時』野沢尚著

日本初のサッカー本格小説と銘打たれ、多くのサッカー選手からも支持をうけています。無名のサッカー少年リュウジの成長と迫力あるサッカーシーンが魅力です。

*『蹴夢』鈴木智之著

米倉ケンタを中心とした高校生たちの練習、試合の中で直面した課題を考えながら克服していくフィクションの物語です。「読めばサッカーがうまくなる」をモットーに、練習の大切さ、うまくなるために必要な意識、食事を含めた自己管理など、サッカーの上達に役立つ情報も満載です。

*『俺が近所の公園でリフティングしていたら』矢田 容生著

「電車男」より泣けるとサッカーファンの間で話題になった青春サッカー小説です。